



TITLE:

形態基礎研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

近藤, 四郎; 岩本, 光雄; 渡辺, 毅; 毛利, 俊雄

---

CITATION:

近藤, 四郎 ...[et al]. 形態基礎研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1981, 11: 10-11

ISSUE DATE:

1981-12-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163011>

RIGHT:

4. 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、そちらを優先する。
  5. 借用後の図書は返却台に返却する。
- \* 図書室では霊長類関係の研究報告の別刷を1977年度より系統的に集めており、1981年6月末現在16,400部を所蔵している。

#### Ⅳ. 総点検および長期貸出

1. 毎年1回図書の総点検を行なう。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、原則として図書室は休室とする。
3. 図書委員会により研究室等への備えつけが認められた図書は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行なう。

#### Ⅴ. その他

1. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
2. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
3. 書庫および閲覧室内は禁煙とする。

#### 資 料

日常活動の中心課題であった死体等液漬保存、標本化、コンピューターを用いた標本のコード化は、完全に軌道に乗せることができた。

昭和56年度は資料整備費が予算化されているので、化石霊長類複製模型、各種霊長類屍体購入が可能となった。外国研究機関との標本交換も軌道に乗せることによって、標本の充実化をはかりたい。これら作業は今年度いっぱい続くであろう。

保有標本の一覧表の作成は、流動的狀態にある現時点では不可能であるので、次号にて発表したい。

## 4. 研 究 活 動

### 形態基礎研究部門

近藤四郎・岩本光雄  
渡辺 毅・毛利俊雄

#### 研 究 概 要

##### 1) 新世界ザルの系統学・形態学的研究

近藤四郎・渡辺 毅・毛利俊雄

文部省科学研究費補助金海外学術調査(総括費)により前年度の現地調査の成果のとりまとめをおこなった。「京大南米広鼻猿類調査隊(代表者: 近藤四郎)」によって発見された *Stirtonia* を含むホエザル亜科の系統的 위치づけと形態学的特徴に関する研究が進められ、現在も継続されている。なお、本研究は瀬戸口烈司(系統研究部門)との共同研究である。

##### 2) 旧世界ザル、特にマカクとヒヒに関する形態学的研究

岩 本 光 雄

ニホンザルの鐘乳洞ほか出土の古骨や現生群に関する生体計測値等の資料の整理・分析を進めたほか、ヒヒについては、エチオピア後期鮮新世層より発見の化石頭骨について記載作業を進めた。

##### 3) 霊長類の成長と性差に関する研究

渡 辺 毅

アカホエザルの頭骨の計測値を成長、性差、地域差、種間比較といった観点から分析し論文としてまとめた。

##### 4) 頭蓋骨の非計測的小変異

毛 利 俊 雄

ヒトでは、近畿・北陸・南西諸島・朝鮮・サハリンの5集団間の頭蓋非計測小変異にもとづく距離を、いくつかの方法で算出し、比較検討した。また、マカク類(主としてニホンザル)の頭骨についても観察データを収集している。

#### 総 説

- 1) 岩本光雄(1980): 中国の化石人類。自然科学と博物館, 47(2), 66-69。
- 2) 渡辺 毅(1981): ドリオピテクス類について。生物科学, 33(2), 92-97。

#### 論 文

- 1) Okada, M. & Kondo, S. (1981): Physical

strain of bipedal versus quadrupedal gait in primates, J. Hum. Ergol. 9-1 107-110.

- 2) 岩本光雄(1980): エチオピアにおけるヒヒの分布について。人類学雑誌, 88-(4), 387-396.
- 3) 岩本光雄(1980): 鷹ヶ穴産出のニホンザル古骨について。西秋吉台鷹ヶ穴石灰洞学術調査報告(同学術調査団編, 秋芳町教育委員会発行): 159-166.
- 4) 瀬戸口烈司・渡辺 毅・近藤四郎(1981): 南米ザルは偽似ハイコボーンを持っているか。人類学雑誌, 89(1), 7-26.
- 5) Setoguchi, T. Watanabe, T. and Mouri T. (1981): The upper dentition of *Stirtonia* (Cebioidea, Primates) from the Miocene of Colombia, South America and the origin of the posterointernal cusp of upper molars of howler monkeys (*Alouatta*). New World Monkeys II, ed. Kondo S., pp. 51-60. Kyoto University Primate Research Institute.
- 6) Watanabe, T. (1981): Mandible/basi-hyal relationships in red howler monkeys (*Alouatta seniculus*): A craniometrical approach. Primates, 22(4). (in press).

#### 学 会 発 表

- 1) *Ramapithecus lufengensis* として報告された化石のもつ意味について。

岩本光雄・北原 隆

第34回日本人類学会日本民族学会連合大会(1980) — 紀事: 人類学雑誌, 89(2): 210-211, 1981.

- 2) On the new discovery of the upper dentition of *Stirtonia* (Cebioidea) from the Miocene of Colombia, South America.

Setoguchi, T. and Watanabe, T.

8th Congr. Internat. Primat. Soc. (1980)

- 3) Climbing, bipedalism and anthropoid hindlimb muscles.

Ishida, H., Yamazaki, N.,

Tuttle, R., Watanabe, T.,  
Okada, M., Kondo, S. and  
Matano, S.

8th Congr. Internat. Primat. Soc. (1980).

- 4) アカホエザル頭骨の地域差

渡 辺 毅

第34回日本人類学会日本民族学会連合大会(1980)

- 5) アカホエザル下顎と舌骨体の形態学的関連について

渡 辺 毅

第86回日本解剖学会総会(1981).

- 6) ヒトとチンパンジーの系統分岐 — late divergence theory をめぐって。

渡 辺 毅

霊長研第10回ホミニゼーション研究会(1981)。

- 7) 近世日本人の頭蓋の非計測的特徴。

毛 利 俊 雄

第34回日本人類学会日本民族学会連合大会(1980)。

#### 神 經 生 理 部 門

久保田 競・松波謙一

酒井正樹・三上章允

#### 研 究 概 要

- 1) 前頭前野の神経回路

酒井正樹・久保田 競

注視行動下で記録される前頭前野ニューロン活動の神経回路を解明するため、皮質、視床および皮質下の諸核を電気刺激し、出力部位が同定されたニューロンへの各入力様式を研究している。また、特に視床背内側核からの逆行性HRP法による前頭前野起始細胞を同定している。

- 2) 前頭前野ニューロン活動の行動への関与

久 保 田 競

視覚の手掛り刺激とキーはなし運動を利用した逆転学習(ゴー・ノーゴー・タスク)を行っているサルの前頭前野外側部からニューロン活動を記録し、運動の切りかえ、運動の抑制をおこす神経メカニズムの解明に努力している。